



飛州志

共拾

ル 4
5009
8



門 4
號 5009
卷 8

飛州志卷第八 舊記部目錄



詩歌

松亭八景十境之詩歌連詠并記

八呼之倭寇并白川卿之狂歌

文書

飛州三木之書

飛州江馬之書

飛州金森之書

越後上牧之書

甲斐武田之書

織田家之墨印



豐臣家之朱印

在名署而表由未考之書

飛驒越中國界論裁詩繪圖裡書

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

飛州志卷第八 舊記部

詩歌

○松亭八景十境之詩歌連非并記

松亭ハ大野郡灘郷松本村ニアリ寛文年中建之高山照蓮寺茅

三世龍興院殿金森出雲子重頼子開居ノ地跡也没後廢之

○八景按スルニ二枝ニ採谷勝詩集ニ載之所ノ飛州八景是ナリ

國分寺晚鐘

招慶院臨川梅林

雲深誰在此山中敲々疎鐘古梵宮可惜風光吟未盡數廷聲裡陽紅

高城秋月

鹿王院江東虎岑

高城之外無邊銀漢雲收山更鮮終夜開窗旁俯仰半輪明月在中天

佐山暮雪

常照寺醒齋道充

佐山自古多題詠何虎漫天暮雪奇遺愛千年人不見屏幃依舊北風吹

灘向落雁

延慶院

元策

萬頃雲天映碧田幾羣鴻雁唳寒煙西風落日江村暮滿岸夢迷蘆荻前

上野夕照

慈濟院龜山中夏

無限風光春日遲花鋪平野彩雲垂一聲牧笛斜陽影猶勝漁村晒網時

松下夜泊

永明院苔洲蘭室

細雨蕭々松下村幽亭闌寂易黃昏慣聞檐滴之孤枕風葉鳴窗亦將魂

三枝晴嵐

真乘院第月知堂

嵐氣吹晴山庄西青松出岳度三枝風帘片々斜陽裏數簇人家映兩眉

宮川長流

三秀院臨川兼定

長川窟曲看搗舂披衆苔吞吐為魚為鷺祖年不止流水何之憶傍君

子思茲在茲

○八景 自是已下本エ
野在ノ書ニアリ

國分寺晚鐘

梵宇當頭法塔重山風吹送數聲鐘柴門深鎖無人止坐見斜陽映

嶺松

高齋

國分靈地絕纖塵雁塔今經幾許春好是樓前視聽樂暮鐘聲裡

月清新

宗勅

鐘ノ聲ハ暮ノ花ノ夕部カナ

宜政

鐘ノ聲モ花ニ白ヘルユウヘカナ

里村氏

昌勃

鐘モコエモヨ 國分寺

貞成

他領マテ鐘ハカスマシ 國分寺

一六

鐘ノ聲ヤ唯ウスキリノ夕端山

元房

高城秋月

高城觀月醉顏怡爽氣掃空暗尚奇一刻千金山庄夕森羅分影

轉輪時

高城夜氣轉清光
月到天心雲霧收
此地風光今始識
從前浪說洞庭秋

殿造リ飛騨ノタクニコテナセル尾上月ノ影ノ隈ナキ北村氏季吟

高山マ月モ面白ノカマヘカナ同

ワキ出ル山ノ白カ子月ノ色季重

アフキ見ルマ名ニ高山ノ秋ノ月木屑

散亂同雲起
位山晚望寬
一天銀屑湧
萬古五樓寒
鄭蔡吟相得

位山暮雪

萬里寒天好
任他位山暮雪興
猶多從然到此吟
膝六多似神當

哀安卧不于何人
抽秘思旨酒極娛歡

自續

為繼歌

夕風マ雪ヲソクミンクラ井山里村氏祖最

此エウヘ雪マ九重クラ井山昌程

遠目ニハ木高シ雪ノクラ井山了心

クラ井山ト雪ニハイカテ夕時雨ヒナマ五圃

一クライ山リ景マス雪ノ暮康言

霧下亭前興不窮
高位飛過幾群鴻
田園秋水清如鏡
影入烟雲

落箇中休甫

微茫灘上夕陽斜
落雁數聲吟興加
滿岸長蘆恰如箭
行々成陣

宿平沙元慎

詠メセシ雁鳴ヲチル田面カナ里村氏法眼

詠メセシ雁鳴ヲチル田面カナ玄陳

灘ニウケシ舟マ田面ニ落ル雁
國トコロ是モヤメテタカリノ聲
雁扎マナタノ鶴波ニ一クタリ
イカニ灘ノ田面トナリテ落ル雁

北山氏
瑛白
宗因

春丸
重長

上野夕照

平野煙霞望渺茫
歸禽休翼倦翱翔
地靈亦似隣
春色彌彌花鮮
留夕陽

用亨

上野天晴風物奇
夕陽紅影滿雲崖
歸鴉度處殊多興
未必溪村
有此時

紹漢

蓮花ツシ上品ノ野ト夕日哉

暫存

夕ワレ野ニ入日ヲマ子ク花薄

打雨

下照ヤ小松ムラ立岡躑躅

宗因

夕日影春野 遠マモチツハシ
薄霧ノ上野ノ色ハ夕日哉
ツシ咲野邊マカスミノ夕日哉
照ツフハ日モ晩葉ノツシカナ

百之

貞因

以休

元隅

松下夜雨

松亭雲外玲歌捲聽秋霖
明鏡藏塵匣
暗窗垂夜琴
放翁懷往事
老杜動関吟
半霄天將曙
江山閨色深
松下夜深留客時
門庭寂莫雨猶奇
偏聽檐滴不須寢
幾度吟哦

自叙

紹的

松風ノ音ハカリシテ水ノ下ノ聲ニシルキ夜ノ雨カナ
松下ノ月ヤ十里ノ一ナカメ
松下ヤソノ色トナキ小夜時雨

同

二條大閨康通公

袒白

松下ノ茂リニ蟬ヤ夜ノ雨

金孫氏

重頼

松風リ琴カ聞支小夜時雨

日氏

可全

松下ヤ見又色深ル小夜時雨

清高

松下ノ風ヤウソ月ノ夜ノ雨

山可

三枝晴嵐

西嶺三枝邑萬松翠接天近看非峰霧遠望類雲烟映日橫山腹欲晡
浮樹顛恨將陶謔予不細寫詩篇

荀文

三枝村外境無邊忽動吟心雨後天一陣西風散雲霧千般光景捲

新鮮

紹恪

聞ノミカ遠山晴ル秋ノ月

里村氏

昌陸

象ヨリモ落葉クモラヌ嵐哉

日氏

昌悅

嵐ニハ海ヲミエタノ徳波哉

如春

聲ノ色ハ松モ深ケリ初山風

忠順

イロハチル一二三枝ノ嵐カ丁

宗甫

殘月マアアテニ晴ルニ夕村

梅盛

宮川長流

宮川水碧灘聲幽日夜潺湲向北流松下高亭勝遠地眺望隨浪思

悠々

抱節

風拂碧天烟霧暗宮川景象自分明人言是水還難信千里平原素

練橫

宗植

コナカミヤ河風晴シ花ノ滝

里村氏

昌隱

見テクミヤ河瀨チイハ夕涼

金孫氏

頼業

官川ヤコウ瀨ニセシ夕振

里村氏

昌悅

サハクレル鶴繩モナカキ流哉

元恒

宮川ヤナカレス、シキ詠カナ

直定

宮川ハ紅葉流レテニホノマリカナ

正由

○松亭十境

白雲城

倚柱坐天明好詩眼下坐欲追千里景更望白雲城 嵩齋
高峯突兀板橋東萬仞金城勢最雄四方安寧人得處于戈處有
虎皮中

養拙

青霄嶺

烟霞風拂聚一望思予重高秀浮雲外想看天柱峯 嵩齋
崔嵬峭壁勢衝天雲樹深々帶暮烟想有群仙營窟在願隨孤霧
問延羊

養拙

指東岳

風聲收野外暮色滿山根東岳月生處佳朝不共言 嵩齋
幽徑杳長正耐攀風光恰似出人寰徘徊曳杖東回首迢迢曾川
雪滿山

怪松岡

風到怪松岡俯宜夏日長覺來塵裏夢一枕轉清涼 嵩齋
千樹老松盡棟染歲寒全節幾何霜夜來欲雨山風急傾覆平湖
萬頃浪

長蛇流

水聲過岸激日影照波晴一派長蛇勢能令俗眼清 嵩齋
漾々溶々未見源盤回曲折過前村一條天割林亭路塵土無由
得及門

弄花原

養拙

紅色帶明輝餘香自滿衣弄芳原上晚遊士幾忘歸 蒿齋
日出三竿宿雨乾遠望原上眼中竟不須縮地神仙術五渡曾先
屬益攔

平田卷

清風拂淡烟白水滿平田雙鷺遊人下群童帶露還 蒿齋
天時人力兩無非滿面平田早稻肥野老一望荷鋤去蛙聲男婦
送斜輝

臨水岸

成去幾回頭清流洗寸軀柴門人不見岸上獨踟躕 蒿齋
汝明水碧兩餘春兩岸青苔鋪新意惟願從今得休去羊裘默坐
擲絲倫

武仙閣

傳哉六々仙英氣衝蒼天百戰功成後古今名已全 蒿齋
子卿將命節何確諸葛受遺忠願深異績雖存人已逝空思萬古
勤哀吟

聚景壇

連山青屹々流水綠湍々風月與花鳥四時共一壇 蒿齋
青鞋竹杖訪山館聚景壇頭把酒杯縱目馳情高處立四方風致
一時來

○松亭記

野間三竹柳谷法眼述
飛之為邦也東接信州西北鄰越山南隔濃州在京師之坤隅而路
不遠矣自豐秀吉封之金森世々守之而后奉仕 源大君為列國
牧高山也者蓋其所居之地也從純僧都姓金森重賴之子可重之
孫賴直維凡常居飛驒國照蓮寺一日龍興院泳親鸞之

流而慕惠遠之風萬治年中別開一園築松亭以消搖身景
境共有十裏景壇指東岳武仙閣皆其所居之境也固有怪
松流如長蛇卷見平田岸則臨水望青霄于峯前弄群葩
十原上僉足以資清與也至若不聽夜雨則暮鐘韻不見皓月
則素雪紛紛僧都之於此間真有呀思乎其耳目之樂適然而
所以悅觀瞻而供遊憩也儻史聲之入耳也其心空々寂々乎
其色之入目也其心清々冷々乎其殆所有一悟乎僧都之於
色之與聲抑養其心蓋其以此乎况又地靈資淨土水若護真如
孫狄之門咏吟今亦得之余遊官 江府多年矣今茲屏居雲峯之
舊隱僧都來而問余寒暄之後望之則風采韶秀胸宇弥深月餘
使門人抱拙子乞其記而不輟焉余佞也駑騫之材恃疎鈇槩何
敢應之乞不輟余遊其邦余未見其境焉識名園之勝耶聊聽其

所述論之件々而漫筆之 寬文四年夏六月日榊谷散人塾子苞父藏
○松下記 山本春正述

シラマ弓飛驒ノ高山ニ住給フ龍興院ハ前大守頼直ノ御第ニテラハシ
マセハ誰カラロカニ思イ奉ランイトアテハカナル事ヲ好ミ至ヒテ尊キ大徳
ナリケル此山庄ハ子世ノミドリノ松下トカマ云フ所ニ物セサセ給フトナ
ン年比聞侍レハサルヲ井テモカナト思ヒ侍ルニマツカシ此年ヤゴトナク
吾妻ニ下リシニ今ノ大守頼業ノ君ニマミエ奉ラシホイアレハ武藏野ノ
露ワケノホリテ八月ノソレノ日此高山ニツキ又近曾京ヨリクダリシ丹
羽氏正光ニ傳ヘモヒテ此山里エイザナイ侍ルキ仰ゴトアレハイトウレシク
モ兼リテ長月中ノ六日空ノ氣色モノドマカナルニ正光ト打ツレマカシ
ニ條ツケハ補ユソナト云ヒタマヒテ石ハフメ成河原ヨリ行道ノ程モヲカ
シクコノモカノモ森ノ木立色ツキ河ヅラニハマテマウノモ打置タルモイ

トメツラカニ見モテ行マニホトナク松下ニ至リ又見又山里ノ穴ハ山口
ヨリシルクヒダリ右ニサマナル竹垣シワタシ外ニ並立タル櫻ノ紅葉蒼ヨリ
モゲニ今ハ盛リナリケル麓ヨリハ二町ハカリモアラシカシト見エル中ノホト
ニチイサキ菴ニ育徳水ト額アリコヨナフ今キ名繪下ド書タルモヤウ
カハリテイシトハカリ尻カケテ前ナル泉ニ臨メハ山際ヨリ涌出ルイサラヒ
結ブモアカズセカ井ノ水ノヒサコモテナトヒトリコケテ行ニ此麓ヨリソカヒニ
百坂^{ホカ}歸リ行ケハ築垣イト唐メイタル門アリ高サニ丈ハカリ石垣シタル山
アヒテ行ソレヨリ一町アマリアユミテイトヲカシキ廊ニ入り又榊谷法眼ノカケ
ル松亭記高齋法師作レル十景ノ詩モアサマカニカケナラハ五エリイッ
シモ見ル甲斐アリテ覺工亭ニイリヌレハ床ニハ二條ノ太閤康通公此山庄
ヲホメ玉フ詩發句イトタヒラカニ掛置玉フ右ノ障子ニ名入ル人々ノ唐歌
ヤマトヲモコノ八景ヲ作りタル色紙ヲシタマエリマアッテ大徳出アヒタマヒ

シバノ御物詰聞エソレヨリ武仙閣ニホリ見レハ國ノウチノコル隈ナク見
渡サレテ先南ニ高城近ク各タル位山尾上達ナリ外山ノスツ野ヨリコナ
タニ塔アリコレゾツノカミ花アラセタル工^ウ造リ置タルト云ヒ傳ヘケル國分
寺ナリケリ姉山路基綱ノ卿ノ侄五ヒシ松倉ヲモ詠メリ茲ニテ身マカリ
五ヒシモ哀ニ思ヒイヅ赤甲ノカタニチカタ離アリワノ初鴈ノケフシモ
コニトビクルテ待人ニアラスモノカラナト^ウ嘯ク人モアルハシ西ナル山ノ木深
キ麓ノモミナワキテ色コキ一技見エタルハ三技ナルハ北ニ上野トイフア
リ春ハ躰躑所セク咲満テ一里餘リクレナイアルヲ見セハヤナトノタマフ
イマタニモ淺芽色コキ野邊ノ氣色似ルモノモナフマシテイカトナカメ
ヤラル宮川南ヨリ西ニ流レテ此山ヲ帶ダリ茲ヲラリテ北ニ時慈舎ア
リ入りテ見ルニイトテモシロキヨソホヒ更ニモイワズシリア谷ニラシ子カケ
ホレ川田ノ面ニ散タル木ノ葉錦ヲ鋪タト見エルニサトノ子ノ何言ナラン

ホコラヒタホ、エミテ走リアリクモイトテカシ向ノ密ニ民ノクセマダツモノ
ニツ四ツフタツコ、カシコニナラベリウシロノモリノ中ヨリ大キナル檜ノ木高ク
ヌケ出タル梢ツノハラナルハキ木トヤラフベカラシ繪ニモカマシクコラソ
柀櫃ノタテ枝ニ伯勞サエヅリ稲負セドリノコカシ羽モ折ニアヒタル色ヲソ
エイトト與アルサマイワシカタナシスベテ此山長サ五六町ばかり横ラシル西
南ノ方ニ住ナシ玉ヘル裏島壇臨水岸ナトモ此園生ニ續ケリ彼島好玉
ヒシ山科ノ禪師ノ御子ニ斯クオノツカテナル瀧落水ハシル岩ノサマヲ
見セタラマシカハ千里ノ濱ノ石モ面フセナシカント見ヌ世ノ支モ思殘サ
スナガムナメリカ、ル水草清キ呀ニ住居セハ限リアラシ命モノハエヌベクソ
思ヒ待ルモトヨリ相シレル人ヒトリフタリ来リトフテヒテアルシマウケイト
メツラモハタノセハモノ詞林綱目ヲキナルハ遠ニ國ヲ隔ル海ノモ河ノモ残り
ナク何シトカワヘツクスベウモアラズ世ニモ稀ナルヒシリヲサハカシユクモテ

ナシユヒテ終日ツミカワセル数ツモリテイトアマシキフモシイダシヌベク
石光ハ芥ノ柄モ茲ニクダサンナド云エド日モ入ヌレハサノミヤハト御殿玉ハリ
マカリ出ルヲ御送リトシテ此ヤカエマテハシミケル御心サシ身ヲカエ
テモ心ルベキカハカウマウニメヅラカナル呀ハ都ノツトニイザトヨ語リモ
聞セハヤト思フばかりニカイツケ侍ルハ唯醉ノマギレノ夕公レニナン
菴シメテ千代モ住ベキ此山ノ松モ友トヤ馴テ知ルラシ

寛文七年九月中旬

○飛州八町之和歌并白川郷之狂歌

本土ニ於テ此歌来由詳ナラス作者知レヌト云ヘ凡俗ノ口禪ニ傳ヘ来リ
久シ故ニ載ス

○八所之和歌

久々野山 在テ大野郡

クノ山マタモ宮木ノタメトテマカスムハカリノ檜原ナルウシ

信農府乃里 在同郡是今ノホ
ノフ村ノ舊号也

蚊ヤリタク畑モクモル空モウシホムブサトノ夕月ノカケ

錦山 在同郡

源トテハ人ノ國ニモ時雨ヲメ唐ノ錦ノ山ノモミチ葉

佐山 在同郡

夕ラ井山雪ニヤトエル老ノ身ハ今ヒト坂ノイカテ登ラシ

山口 在同郡

奥ノコク花ヲタツ子テ明ホニ山クチシルク雲ソカホレル

宮 在同郡

宮殿ノ御タラシ川ノミソキニモ三千歳君カ御代ヤ祈シ

磯 在同郡

穂ナミカルナクノ田面ノ秋ノ菴馬金寒ク風ソ身ニシム

細江 在同郡

サハノテホソ江ソコル萱鳥ノ森マ夜ノ霜ヤハラ井カ子霍

以工接スルニ是婦巾路基細脚ノ詠スルモノカ

○白川郷之狂歌

國説ニ云ク天正年中金森長近入道素玄法印飛騨州代治ノ命ヲ奉シ
越前ノ石徹白ニテ勢ヲ揃ハ飛騨州大野郡白川郷ニ打入ル所ニ向ヨリ旅
僧一人来リ又先キノ諸卒等不與シ彼ノ僧ヲ通サス今日法印入國ノ
始ナルニイマタ敵ヲ見ヌ速ニ討テ捨ヨト句ケレハ旅僧笑ツテ見レハ
主將既ニ法賊ナリ何ノ我ヲ処スルヤト云フ處ヲ法印則士卒ヲ制シテ僧
ニ向ヒ唯今諸卒ノ云フ処其詔レナキニ非ス然レモ汝一句ノ祝詞ヲ述ヘヨ此
場ヲ通スニトアリケレハ件ノ僧法印馬上ノ鉢相ヲ折見テ申出ケル

大將ノ召タハカマハ白カハヤサテモ見支ニ取ツタヒダ哉 トソ云ヒ
ケレハ数千ノ甲兵一同ニサテモ任ツタリト勇ミタレハ法印其作意ヲ褒賞
テ火打袋ノ金錢一ツ取出シ僧ニアタヘ通サレケル
又書

○三木直頼 修理亮藤原重頼子
右兵衛尉大和守

益田郡萩原御籠
澤山禪昌禪寺藏

孫右高一公就別來後志レ仕送レ可レ作レ也レ
假レ仁レ義レ也レ可レ作レ也レ

如言書之出國之刻然其同是情也思依書中云云
此抄多者之難然其良頼十室何也此合也之方
之案也其安なる人

一書源朝使者レ依云是非人於其言可然其出也事
皆源朝此時出弘之奉也其形極去年已末之出作付
角後之也其源朝之是情也其孫也其是情也其
其之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
一延友折紙は披見レ也レと云はア事也其也其也其也其也
中伊也打是レ上云及是源朝レ人妙親寺也事也其也
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

七月四日

直頼
月

如昔書改事し出度治重しし於古祝言し予等
体於之相從大高寺願涉札為程相領傳自是予等
之存無成出報意即し即何程進言し中上治言大馬
厨子出書出言物進徳而彼使の境思し居言也
一以進言し人思進言

四月十日

直頼押

進上 禪昌寺

昔書請る相見仕人山内及領自難得下又餘言より

同名たる事大素は如流誠人自是信成事し中
乃書相相調はとて皆くも得事于今其分大形
又之志事はさむ人拙者も角井後如言し
中侍の上は言明自中上は志進言

四月十日

直頼押

進上 長老願 言答

初之書事事は入仕りて中上畏入

唯今し予書何も致相見人依兩中而取信言し中上
進言は作事は安んずし仍志進言事は入而言し
中上今言し同言し進言し言及言何例し言

今日土川高田左衛門尉と申す者火醫者なり曾て我城を
P 惣一室一披養生を在座と云はれ此に任天を言
く才に任内を以てあて給ゆ所して此山より遠く人の慶
臨み山状は披見の区をやりし高田の飯は遠くは作
事を書きし種く陸中事外にその旨指飯静置の業の内
く旨の思はしあると思ふ國中物候は果不為事
飯は人の喜服に信列本宮の道は高田國中有城の飯は
以て飯に右様と申すは張高人の法亦無難なり
心あるを降く又主の旨を留美流にたえ飯と申すは
是日高田の旨を今明日申すは法徳の中宮高田
の飯高田の飯に右高田の旨と申すは高田の旨に
高田の旨に高田の旨に

九月十日日

直頼押

大和守

進上禪昌寺
さう報

直乳

昨日より葉片雜疫漸祝長く仍る今銘下り人々付人
必雨降る葉片雜疫漸祝長く仍る今銘下り人々付人
葉片雜疫漸祝長く仍る今銘下り人々付人
必雨降る葉片雜疫漸祝長く仍る今銘下り人々付人

九月十日日

直頼押

進上禪昌寺
直頼閣下

家書中振書する可き事

一 官置本税言好言好言も指神後思人

一 五孫も好言好言も好言

一 二佛与大方度亦好言好言も好言

一 好言好言中好言好言も好言

一 市孔飯出知一山事一好言好言

一 好言好言好言好言も好言

十月十日

進上 禅昌寺 横衣布園下

一 好言好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 昨日の書物の中好言好言も好言

一 願王寶... 國... 時分人...

一 向山僧... 借...

一 是如... 子... 十...

十月...

在...

進上禪...

...

三...

...

以晚... 事...

卯月...

在...

進上禪...

三...

...

...

信子母の衣御書下

良頼

おく平海をたしはゆりの花とあり

うくのこくとくおきやん

は返るものありはたつこ
今□をルル京部よりし百句鳴白□
P事こくおきやんてやとよし

良頼

志へと信子母の衣御書

以上三木直頼良頼之文書各禪昌禪寺ニアリ其文ノ裏ニハ後人
四書之詮説ヲ記セリ則後書アリ筆者昭花末由未詳
○四書之詮説後書

右斯聞書東遊在駿之日就小童借用寫之再禪
昌在寺以閑暇改之書之
天文十四年庚辰十九日未剗拋搦筆者也三十
八張在之

昭花

英

掣スレニ東遊在駿ノ日トアリ再禪昌在寺トアル禪昌開山
 明叔俊今川家ノ請ヨツテ駿府ノ臨濟寺ニ住持セシ其夏九ノ
 ○三木直頼
 大野郡夏鹿打蓮徳寺藏

昔持集微そん
 ちより悦志し
 殊足すゆい
 貴族云比類人
 妻細久介云
 多し活

極月十直頼押

風之塔衣

○三木自網 右京大夫良頼子
大和守入道久庵

大野郡高山住氏藏

川端公用戴百匹之故送毎し極り并し外用捨重
 令祝忌人未定於下少し志し得し

極月十六日

自網



増屋筑前守殿

自細

○同

同郡同町大坂氏藏

河端より借り得たる是細子哉一旨巨細合致
近年の依家下付して成其さし

巳月晦日

自細押

増屋筑前守殿

自細

○同

益田郡小坂村細江氏藏

自細押

名字補任之依
忠節之筋目任
有之内之其理
合致知人我旨
臨奉公之細
忠功之後
要之也

天正

五月十日

細江左衛門尉高直

同

同氏藏

細江左衛門尉高直
治承五年壬午八月
知少事
左衛門尉高直
右衛門尉高直
左衛門尉高直
右衛門尉高直

○同

肝要也仍如件

天正

五月九日自細押

牛

○細江畧系

源重直

依之本右近大夫

京極四郎左衛門尉高直從五位下佐渡判官入道直譽法号
勝軍寺高要十一世三郎左門尉高直之弟二子近江國細江庄居住

細江左近

直綱

住于近江國細江庄自是稱細江氏同國中谷城主仕于後并備前守
長政其後元龜元年庚午八月為織田信長之泷井家滅亡之時
於干同國弟川討死

重宗

細江源次郎

重高

細江内藏介

後改川瀬

直頼

万木元近

造酒允

改細江太尉左衛門頼經

頼定

父直綱討死之後飛騨國松倉城主仕于三木大和守自細
本名復細江氏
細江氏在門

直正

細江攻島兵衛

頼勝

細江牛之助

以上細江畧系猶詳十九三八及又

○同

同郡大島村小瀬野氏藏

白細押

荒井世帯在桑門分事
作、細十俵、多細不
之、其亦、吾、吳、依
抱、並、供、役、市、金、五、勤
在、公、管、要、也、仍、以、件
天、正、十、年、也

三月二日

山名
二〇〇〇〇〇〇

山七郎強敵し後不
玉器中作く前と五
裁許法設市令お
勤を公忠前管免
仍此件

天正十二年

卯月吉日 秀綱



徳島藩主より

○江馬輝盛

常陸介平時盛子
常陸守

吉城郡跡津川村左古氏藏

今意者小姓、後、付、公、飛、御
入、入、昔、五、事、し、中、取、く、何、事
こ、こ、と、由、く、行、州、出、陣、く、与、取
く、条、名、を、く、結、お、出、陣、馬、名
折、其、後、者、行、州、出、陣、て、り、上、人
活、沸、れ、九、歳、を、取、く、高、嶺、津、守

三月十日 輝盛

印

○同

矢部告七節版
糸部宿版

目郡宮原村

藏

文詞消テ不見

天正三年四月十日

輝盛押

昌興
甚助

○同

同郡在家村

藏

輝盛押

矢部河に事あるはひ
賣中以外上中下におき
下ハぬ山志やういおこ夕
総ハ下及海しやん

天正五年

拾月二日

同

同郡船津町河上氏藏

尚所お末代ゆも
遠形を言ふに已

高人方し倭諸事上下宿に付るも其方完修
未付了處法度し倭之得て中付志也仍存

天正云

十月廿七輝盛押

河上用分との

○同家之連署

富房 實次 富範 直久
富秋 以上姓氏未詳

同氏藏

藏

○河上氏藏

尚所お末代に
少も未遠を言ふに已

高人方し倭諸事上下宿

に付ても其方完修了

何程し仕立に付るも遠

形を言ふに已

天正云

十月廿八

富房

實次

新藏

○江馬輝盛

同氏藏

河上用水辰

富秋	直久	富胤
胤	西	胤

江馬重成

東由希詳江馬輝盛氏族名ト云

同郡今見村今見氏藏

源一ちとのふ見みのる
 うさしと助事より付
 のめしとすしはるめ件
 三月十日 輝盛押
 天云元年

河上用水辰

以上

右湯之山儀

いまの厄事
お末代より
中事

江馬右衛門左衛門

癸丑

三月十三日

重成

五

し中
左馬つた
系

○金木林長近

源姓五郎八入道
兵部卿法印素公

大野郡牧戸村河尻氏藏

令杖賜所目録事

一 右拾遺右中少輔

一 九等右中

一 七等右中

合言右中少輔 山林内園本隆之

右金言急行々状如件

天正拾五十二月十三日

重成

五

上層河村の内

上層河村の内

九ころけ村

大八等

山右井村の内

河原勘平殿

同郡高山黒木氏藏

○同

行以馬ノ事給てても又馬馬をも入言
ふ物していふるとも其言を石徹白まで
ひらせよとておろし

熊ヶ下小仍其國ノ倭大州と在爾討之方と出入
不自思之言也〜此理ノ上 其場毎て
此意何給大種ノ倭ノ句論云別倭言お程子て
心あ〜一服ノ仕合た〜物々其國ノ福業高志もつ方
先にお世に仕信也〜千百倭市ノ糧〜今ノ根也

○金

此今入丁中付ノ國元ノ事ノ福也心は白〜中供ノ旨
不之別倭ノ事細ハ其方之以上一書ノ中ニ旨諸
了〜此中供也付之改更〜之志〜一第臨機也〜事
中取之問敷〜於山村又ハ〜中合ノ志〜此〜
和刻

九月三日

長近押

五八入

石徹白とて其方ノ後

長近

○同

同郡三福寺村中池氏藏

急度ノ事ハ物々金津陣ノ件 七月朔日ノ倭見也

同十日、本宿、内、せき、まて、て、あ、る、其、の、國、守
 し、人、ま、た、戸、籠、り、し、り、回、る、所、に、時、を、過、し、別、居、り
 て、く、情、面、に、合、給、人、才、方、に、後、り、し、ん
 一、我、の、書、不、し、人、ま、た、七、月、の、日、免、然、し、り、あ、ま、て
 の、あ、せ、て、は、良、妻、と、人、と、し、て、を、以、て、付、上、せ、て、や、し、ん
 ぬ、我、の、七、月、の、日、免、然、し、り、あ、ま、て、て、あ、る、其、の、地
 け、の、ま、う、の、あ、る、と、急、や、付、上、て、や、し、ん
 一、書、不、し、り、日、を、長、柄、し、者、あ、り、人、尚、た、八、日、九、日、に、伏、見、に
 集、る、と、極、に、上、せ、て、は、今、夜、陣、見、出、入、を、中、り、し、り、し、ん
 百、其、の、ま、た、し、陣、を、勤、め、し、り、あ、ま、て、て、あ、る、其、の、地
 役、を、ゆ、り、し、り、折、紙、を、百、姓、に、見、せ、し、り、松、子、の、中
 付、上、り、し、り、何、れ、も、あ、る、と、由、り、し、り、也

五月十三日

益田

印章不分明

田邊道周
 大坂屋敷のり
 今井忠重のり

益田郡瀬戸村池野氏藏

〇同

以上

尚村に於て、
 二、三、年、の、二、年、あり
 付、上、り、て、持、持、て、授、賜、す

たふひよ路傍も欠
まのせしむら
はるまじくせし地
天正十七

吉田玄押

あいつの
山たあつた

同

候スルニ丙戌ハ
天正十四年ノ也

吉城郡今見村今見氏藏

右のまゝに在り所

きし所云及人方
如しき者也

金森浩下

丙戌
九月九日 吉田玄押

いす
三行次子玄押

○金森家十連署

益田郡和佐村藏

は枝木割符し事す
りりし仕りし
めりし也

元和九年
閏八月十日

松野次郎介押
寺次権左衛門押
大野宗左衛門押
大塚権左衛門押
全藏五郎助押

藤生村馬淵之郷行弟合下呂村
増田中山村 山ノ上村 久々村
宮村 河内村 山中河上三谷村 河内村
たの谷村 河内村 右子も入申

○上杉謙信

長尾信濃守平将景子 初名景虎 後上杉憲政ノ讓リヲ著テ姓氏ヲ
改ム又室町家ノ一字ヲ賜リテ輝虎ト稱シ彈正女房越後守從五位
下天正六年四月十三日卒法号ヲ不識院殿
謙信心光常真大居士ト稱ス又号所和仁江馬也 大野郡高山佐氏藏

尚表上出馬之旨 為祝儀左力一様
別直祝意人於以表之 権子河内
左子河内村 誠之旨 堪之旨

九月十八日

謙信



和仁佐中守殿

○同

宛河河上伊豆守
江馬家長臣也

吉城郡船津町河上氏藏

延万白布三端也之人人以此

就敬申了郡静信降集没輝盛万吉信家
延万白布三端也之人人以此
淡心中善化事官当以て物振其方元淑也古極
拾之为善行第千云其後也中善延万以此重人
忠上好之

六月十三日

滿信押

河上伊豆守及

○河田長親

上杉謙信家臣河田豊前守
宛河河上中務兼江馬家長臣也

大野郡高山河上氏藏

備礼据是親其个云云河上今及時盛言其有官
國方湛位此一味也今及及及是此以并以此云方
其意先心助日輝盛は内族也我中境也其九探依
者指云云云云由人因落云云云云也其言類輝盛能
云云此調依也云云其作有官河我中其云云付
尚以云云元也言信列也其馬也于河中也七月以性
及云十日立諸甲別也其押也其時盛也其相云其
其在後也一和輝盛也其云云一依了物云云其後不
其器也其是也云云其巨細也其云云其也其机也

不具上之好之

河因

十月七日

長親

飛

河上中勢盛後

○村上國清

村上元三郎義清子源五郎也
亦部安補八江馬輝盛之家臣

飛州

地役人

上田伯耆家藏

○西田清
大藏清高正所上九條

其策遂之云音之田小多自輝亮以飛御上其
國何奈子細才之義成以安六入之口正為降之及
此音信之建之生之何元成之云之也□人悲別老之
世高之元成也子一人也其世也之也死而於醫之令馳
乞心之也如之彼之物報以義成但入之尚國也
之彼之音滿心之也之也其法之於若林之也
之令略也之也之也

村上

國清

飛

二月十日

河上或部少輔政与

○武田信玄

左京太史源信元子大膳太史晴信從五位下
天正元癸酉四十二卒死所麻生野江馬時經子也

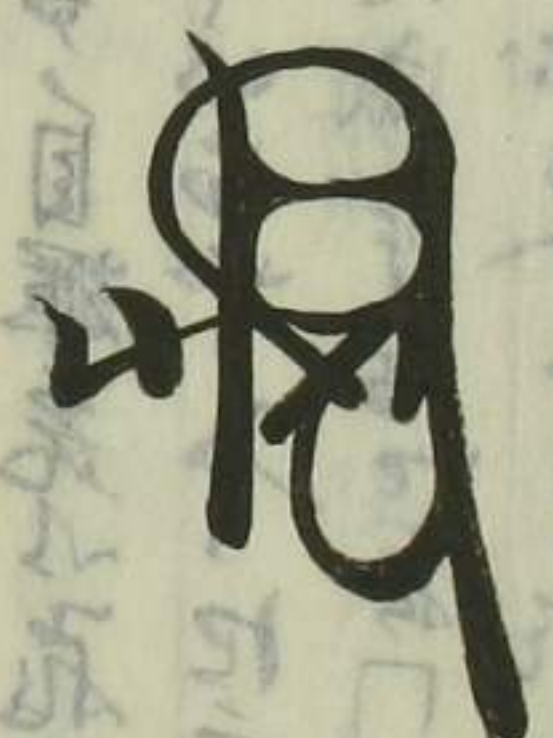
大野郡高

修驗 服部成院藏

別入魂、召難火地、亦上而貴、
忠節一達、所可海而、其國、
後身人止、得之、

永祿或十月三日

其美... 永祿或十月三日



麻生野右衛門左史政

○織田信長

備後守平信秀子從一位在大臣天正十三年六月二日明智日白守自被贈太政大臣
總見院殿下稱又此書由未志等或云金孫家土二有根尾氏是三賜儿里印了力

飛州 地役人 安江廣當 家藏

先度巢鷹、
如令中人、
送如、
羽子不、
如何、

仍摺し西五路宛送之し終
令致五所八下人共了済之し

六月十日 信長



根尾右衛門左衛門

根尾市右衛門

根尾吉右衛門

○羽柴秀次

大関豊臣秀吉養子實三好氏三位法印一露子女八本吉婦也關白
元大臣正三位有政而文祿四丁申七十四於高野山自教二十八歳

飛州 地役人 河上政從家藏

末三月太閤法三万石高野山海國志在公
人々後去年四月以公國守守作也言
信濃守立陣し面々在公事海を以八人川
也一々て其海ありて傷中同少者ありし
尚月中名護原にて茶陣あり法座法座
其にお徳君あり其者事不及由法座其
所代友給人別地下人誠度と為世の
者也

文祿二年四月日



飛州

金澤西

西之

有名署而表由未考之書

○昌氏
元清

景氏
景氏
備清

連署

大野郡夏鹿村蓮德寺藏

輝盛押

古河今南是字
收与公因伏年首
張之事八百五十文
内冬百文通尚
年平酒下高都
尸上之致技持人
回片佃之債
寺中完伏免

一人は是も當年一人
より事人河内如件

三日月

三日月

氏

氏

氏

氏

氏

元

氏

氏

氏

南に在る姓中

以上按スルニ大永年中ノ書ニ富氏アリト云ヘ凡其
花押同シカラス別人ナルカ又御佃未詳村民云ク是
禁裏ノ御料ナリト也南ノ百姓ハ本土ニ於テ益田
大野ヲ南カト云イ吉城ヲ北カト云フ

同寺藏

宗性

合一前着

右伴田地ハ宗性ヲ代ヘ受也子ノ
孫ノ以イヒテ子ノ孫ノ以イヒテ

あるまじく一たのふらん此をよ
永代中川にあらんをよ 実心也
但といはちよふすまてをさ
事人ともすゑま法代すても
すまてけあるまじく一仍
後日忖也件

應永才二年十月廿二日

たとり此任人交前若多宗性

○栗原衛門

同寺藏

賣渡永代之田の事

合致及老

法不ハムカイ垣田
とん急はすと一返
佃をよ一返是ハ子らひこ

右件ノ田地ハ後者要用永代に
代陸費又ノ里海ノ處矣正也
佃一そく志んるいそも急いり
法不ハムカイ垣田

文安六年五月五日

栗原衛門

○連署

久清
重氏

同寺藏

宛行富安の河南本の田地之事

合一町三段比格敷歩志 小切左左

此内比段大敷田也

右佛年貢并法沙之事以下任先例
了致子沙法考也仍可宛行の如件

寛正三年九月十二日

久清
宛

重氏
宛

○久清

同寺藏

宛行富安の田地之事 小切左左

合際取志

右年貢法段亦無損念了致子沙法
の如件

宛正三年拾月八日 久清押

○清頼

同寺藏

宛行富安の田地之事

合陞後者

擇中垣也

右筆員陞後市各備急可發其
河法者也仍免收也

文昭武年 庚十月一日 清賴

納

少切方全三節

○清賴

同寺藏

宛竹富安河南卒在田也事

合是所三股也務載安志

但此因也及年云安為安不
回迎安因方宛竹處也

右涉年員 兼法涉公事以下任
先例之詞云 涉法者之仍不宛
仍之收也

文昭武年 庚十月一日 清賴 押

少切方全節

撰文三三節
落字十ルハ

○賴忠

同寺藏

宛竹富安河南卒在田也事

今或後志

坪、垣内田名也

右年貢法後亦云悔意可致
于汝法也也仍免收也件

天明九年六月五日 輕忠 **德**

垣内三希後家

○連署

富國

同寺藏

南布令、内、外、事

二派志

富氏 **响**

右 **响** 流之因若身 **响**
号又天下一同之佛德政切中其

大永七丁亥霜月十日

富國

海

山切字之介人

○連署 三塚富國 房氏

同寺藏

右河郷南中郷のりみそむつひ
名因し事

合載候之不

こつちろ志をて依りこころいたをこつち
こつちろ志をて依りこころいたをこつち
系引替係り、未代は取あ及りあ
未代は取あ及りあ、未代は取あ及りあ
法去也物を礼敬受又は依りあ

昔大永八年 佐ちのへ 十月五日 三塚富國 房氏

房氏 嘸

長洲新地まつ屋

○重利

同寺藏

新

下賜下地し事

○無名

按スルニ名
字ノ折紙也

合藏及志相中平字分
右無未達可也
急切ノ旨ノ作也
河板達物
天明十九
四月七日 重利
新地寺言及

款

同寺藏

海

新地寺言及志相中平字分

永正七年五月十日

○無名

按スルニ名
字ノ折紙也

同寺藏

新地依五部平徑魚

大永元年九月二日

同寺藏

○右馬允直虎

○右馬允直虎

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

大永元年九月二日

一園中し後去七日乙巳寺を所すべし山より如是新九日
 甲辰師及は出流し各別後し中し和列公可有
 丙午出はえ修し如く如く有是是先以事身
 丁未の出入中流も立し中流中流あり
 一麦し粉を中しをいかに於中列引中流中流中流
 一乙巳後出寺一面姓女志事人付し
 一卓板事事書は事付し書しは中流中流中流中流
 一甲辰持を
 一乙未急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一丙午急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一丁未急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一戊申急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一己酉急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一庚戌急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一辛亥急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一壬子急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一癸丑急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一甲寅急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一乙卯急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一丙辰急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一丁巳急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一戊午急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一己未急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一庚申急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一辛酉急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一壬戌急しつる修しり修しり中流中流中流中流
 一癸亥急しつる修しり修しり中流中流中流中流

人として云力の由修しり修しり中流中流中流中流
 丙辰寺を修しり修しり中流中流中流中流
 三月十日
 瑞建
 蓮上堂願和尚 侍衣閣下
 長禪昌寺
 瑞建

○時政

吉城郡船津町村河上氏藩

其方河上田名は修しり修しり中流中流中流中流
 守て荒本お下切し貫熟百又出流し中流中流中流中流
 村上切し修しり修しり中流中流中流中流

天正初年
卯月十日

時政

河上郡助

○連署

富信
富春

以上接スルニ河上之家説ニ云ク富信ハ
河上中務系也富春未詳

同氏藏

時政様
中山路
下切之貫

○時政

以以公卿
時政様
御要
御以互

河上

天正初年

卯月十日

富信
長雨

○浦野習助

撰ヌルニ
河上用助カ家名ナリ

同氏藏

○網

換スル三年屋トアルハベヒ屋ノ設テルカ又宛所ノ地名
各越中國ニアリ魚谷今ハ庵谷ト云飛州ヨリノ道路也

自奥より上馬付二件
分中役而ふて有是後
考也仍如件

浦野智助
至之

丁亥
四月十七日



紅紙家用助後

同氏藏

○無名

按スルニ法
関市解

之より毎座半をツ役
除て亦以換かくて通
り如件

永禄八年

六月十日

源

吉住

魚谷

藤津

同郡敷河村三井氏藏



江馬古寺助故為具足
而重字數思其通一條谷中
法園上下無字煩之為如也
者也河如伴

永祿十一年庚午

八月十八日

法園中

○擔負

同郡二重根村禪通寺藏

細田公之姬依以令同公上印役市金所如勤在
吳依也抱至下者身公者也仍如伴

天西格三

十月十四日

擔負



年九一節反

○無名

大野郡久之野村

藏

今度依忠管手子

年貢の白五又令披
脚人以以音除在公好要
者也河以伴

天正丁二
壬八月廿四日



西尾孫右衛門のへ

吉城郡宮原村

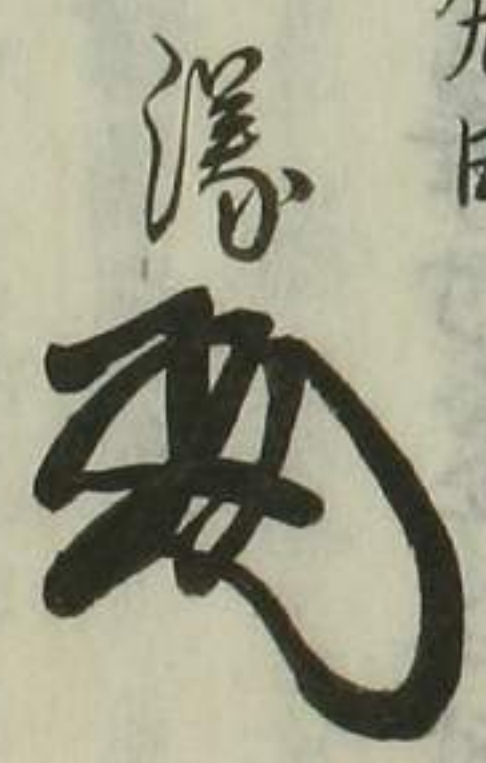
藏

○落
撰スルニ
儀字力

大森八幡田新五年田敷及

を貫

和百文し百令家仍度也但不取法し時若元上
他人に宛行へり者也仍為後日之状也伴
寛永十五年二月九日



友の為へ宛行可也

○無名

同村

藏



高原の山□□の回二股を鋪一所有又為
完結也可令知行此如件

嘉慶元年十二月十二日

完給

太史房

○飛驒越中國界論裁許繪圖裏書

飛驒國吉城郡山豆澤村桑谷村二河原村角山村
二ツ屋村与越中國境負郡相谷村布谷村荒原村
須郷村國境論之事為接使長因平為依服信たの

邊を見分し處相谷村よりいふが在村より後改め之
由降中之中し小石神橋越方之桑小原子え拂
相可荒之金山し依相谷村より若二十餘年餘以前より
相中降中之まが数年相板石孔見れ其上飛驒
越中其國し以繪圖を穿鑿之度論而之飛驒之
繪圖之者お是以越中し信急、云々上より相谷村
へ處地分り桑飛驒し百好の理運り付れ仍為後
繼繪圖し西東方山豆澤村八町下其國境し石塚
よりこかや原平し尾通くぶまの谷志んり出守
西方境八谷金剛ヶ嶽之山峯道墨が所之評定之
而し加判國境未定信急一校是雙方に下
否し桑永不可違矣也

延寶二年八月廿二日

甲斐店在通川下
佐山女会津下
板浦川前下
宮崎若狭中下
修田出雲中下
布多長門中下
六田伴賀中下
山笠高山城下
古原但馬中下
久世大和守下
福原貞濃守下

附錄共拾卷之內

十一之五
九六

